

科目名	小児看護方法Ⅱ（看護実践） Pediatric Nursing Ⅱ			担当教員 （研究室番号）	前田 貴彦（206） 上杉 佑也（208） 西山 修平（208）		教員への連絡方法 （メールアドレス）						
履修年次	3年次 前期	科目 区分	専門科目・生涯看護学			選択 区分	必修	単位数 （時間）	1（30）	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
												オープンクラス	否
科目目的	小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を習得するとともに、小児期に罹患することが多い疾病を事例にあげ看護過程を展開し、子どもと家族がもつ看護問題を解決するための能力を養う。												
ディファレンス （DP）	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。（思考・判断）											
	関連するDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。（技能・表現）											
到達目標	1. 健康問題をもつ子どもと家族の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響や問題を解決するための看護方法について、成長・発達段階に応じた方法を検討し、記述することができる。 2. 小児の看護過程の特徴について、記述することができる。 3. 事例に基づき看護計画の立案に必要な情報の分類およびアセスメントができ、それらを記述することができる。 4. 事例に基づき子どもの成長・発達段階を踏まえた看護目標を設定し、記述することができる。 5. 事例に基づき看護目標到達のための具体策を考え、記述することができる。 6. 小児のフィジカルアセスメントの特徴について、記述することができる。												
成績評価方法 （基準）		筆記試験（50%）、看護過程の成果（50%） 看護過程に関する記録の未提出者および提出遅れは減点対象とする。											
再試験の有無と基準等		科目の合否結果で不合格となった者には、当該学生からの申請があれば再試験を実施する。再試験は筆記試験とし、それまでの課題や出席状況は再試験の評価に加味しない。											
教科書		系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院） 発達段階を考えたアセスメントもにとづく小児看護過程 医歯薬出版株式会社											
参考書等		必要時提示する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		看護過程の演習では、各自の事前学習とグループワークを取り入れて進める。グループワークへの参加にあたっては、各自が事前学習を通して看護過程への理解を深めておくこと。また、グループワークでは、活発な意見交換ができるよう、各自が自覚をもって参加すること。											
備考		小児看護方法Ⅰを修得していないと履修できない。本授業は、小児看護学実習に直結する内容であり、積極的な参加を期待する。											
回	学習項目					学習内容					主担当 教員	授業 方法	
1回	オリエンテーション 急性疾患をもつ子どもと家族の看護					本科目についてのオリエンテーションを行う。 急性疾患（呼吸器感染症や消化管感染症、血管炎など）が子どもと家族に及ぼす影響や問題について学ぶ。 急性疾患が子どもと家族に及ぼす影響や問題を解決するための看護方法について学ぶ。					前田	講義	
2回	看護過程について①					小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・情報収集と情報の分類の仕方について理解する。 小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・分類した情報のアセスメントについて理解する。					前田	講義	
3回	手術を受ける子どもと家族の看護					子どもの周手術期の特徴と必要な看護について学ぶ。 手術が子どもと家族に及ぼす影響や問題について学ぶ。 手術が子どもと家族に及ぼす影響や問題を解決するための看護について学ぶ。					上杉	講義	
4回	小児のフィジカルアセスメント					小児の呼吸・脈拍・体温・血圧を安全・安楽に測定し、評価するための方法を学ぶ。					西山	講義	
5回	看護過程について②					小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・事例（感染症に罹患する幼児期の患児）から実際に情報分類を行う。 ・事例から実際に情報分類した内容の妥当性をグループ内で検討する。					前田他	演習	
6回	看護過程について③					小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・事例から情報分類した内容を実際にアセスメントする。					前田他	演習	
7回	看護過程について④					小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・アセスメントの結果から看護問題を抽出する方法について理解する。 ・アセスメントした結果を検討し、看護問題を抽出する。					前田	講義	
8回	看護過程について⑤					小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・抽出した看護問題をグループ間で検討する。					前田他	演習	
9回	看護過程について⑥					小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・看護目標（期待される結果）および目標を到達するための具体策について理解する。					前田	講義	
10回	看護過程について⑦					小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・抽出した看護問題に対し、成長・発達段階を踏まえた看護目標（期待される結果）を導く。					前田他	演習	

回	学習項目	学習内容	主担当 教 員	授業 方法
11回	看護過程について⑧	小児の看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・抽出した看護問題に対する看護目標（期待される結果）を到達するための具体策を考える。	前田	講義
12回	看護過程について⑨	看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・立案した看護計画について検討・修正を行う①。	前田他	演習
13回	看護過程について⑩	看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・立案した看護計画について検討・修正を行う②。	前田他	演習
14回	地域で健康問題をもつ子どもと家族の看護	地域で健康問題や障がいをもちながら生活する子どもと家族に必要な支援について学ぶ。在宅で医療的ケアが必要な子どもと家族への看護について学ぶ。	上杉	講義
15回	看護過程について⑪	看護過程を展開する具体的な方法について学ぶ。 ・看護計画に沿った看護の実践と評価について理解する。	前田	講義

学 習 課 題

※5回以降 看護過程に関する事前課題

看護過程を展開するための事例で扱う患児の年代の特徴および疾患の病態生理、治療、検査、看護について各自学習する。

※看護過程に関する事後課題

事例で展開した看護過程を所定の日時までに提出する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員、看護職として小児看護等の臨床経験を有する。担当教員は看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。